

「第17回 製薬協フォーラム」を開催

「第17回 製薬協フォーラム」を、2016年11月24日、経団連会館において、国会議員、行政、関係団体、オピニオンリーダー、患者団体、および報道関係者など約350名の招待客の出席のもと開催しました。当フォーラムは、製薬協に関係する各界のリーダーと会員会社の代表者が一堂に会して意見交換を行うことを目的として毎年この時期に開催します。今回は、日本で唯一の自然科学の総合研究所であり、かつ基礎研究では世界最高水準の研究機関である特定国立研究開発法人 理化学研究所理事長の松本紘氏を招き、講演をお願いしました。



会場風景



理化学研究所 理事長の松本 紘 氏

第一部 講演会

理化学研究所(理研)理事長の松本紘氏による「日本の科学技術イノベーション」と題する講演の内容は以下の通りです。

理研は、「特定国立研究開発法人による研究開発等の促進に関する特別措置法」に基づき、2016年10月1日付で「特定国立研究開発法人」に移行しました。理研が特定国立研究開発法人に選定されたということは、これまでの実績を国会で、「世界最高水準の研究開発の成果が見込まれる」と認定されたということです。日本は世界の中でも資源の少ない国であり、科学技術の成果で生きていかなければならないと思います。特定国立研究開発法人となった理研は、国際競争の中で、革新的な研究成果を創出することにより、イノベーションの種となる新たな概念を生み出し、社会課題解決に貢献する研究開発を進めます。また長期的な視野に立ち、イノベーションを起こせる人材と、その人物が活躍できる社会を生み出していかねばいけません。特にわが国の経済成長、地球的課題の解決の先にどのような社会を目指すのか、何のためのイノベーションか、未来社会に必要な科学技術とは何かを深く洞察する社会ビジョンや夢を描くことを業とする「イノベーションデザイナー」という新しい個人を生み出し育てたいと思います。世界初のiPS細胞を使った臨床試験等、医学・薬学分野においても、理研をハブとする産業界や大学などさまざまな分野・セクターとのネットワーク体制を構築し、「産学官」連携を促進していきます。

製薬協は、革新的で有用性の高い医薬品の開発と製薬産業の健全な発展を通して、日本および世界の人々の健康の向上に貢献することを目指す研究開発志向型製薬企業の団体です。松本氏の講演は、世界最先端の医療技術・サービスの実現、

健康寿命世界一の達成はもとより、健康・医療分野に係る産業が戦略産業として成長し、わが国の経済成長へ寄与したい、との製薬産業のビジョンを後押しするものでした。

第二部 懇談会

懇談会では、製薬協の畑中好彦会長の主催者挨拶に続き、厚生労働省を代表して厚生労働副大臣の古谷範子氏、および、同じく厚生労働副大臣の橋本岳氏、日本医師会を代表して副会長の中川俊男氏、日本薬剤師会を代表して会長の山本信夫氏、患者団体を代表して一般社団法人全国がん患者団体連合会理事長ならびに一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長の天野慎介氏から来賓挨拶がありました。



主催者挨拶をする製薬協の畑中 好彦
会長



厚生労働副大臣の古谷 範子 氏



厚生労働副大臣の橋本 岳 氏



日本医師会 副会長の中川 俊男 氏



日本薬剤師会 会長の山本 信夫 氏



一般社団法人 全国がん患者団体連合
会 理事長、一般社団法人 グループ・ネ
クサス・ジャパン 理事長の天野 慎介 氏

日本製薬団体連合会会長の多田正世氏の乾杯の発声で開宴となり、その後、多くの国会議員から製薬産業に対する期待と激励の言葉を頂戴しました。満員の会場は多くの参加者の熱気が溢れ懇談の輪が会場いっぱいに広がりました。終宴にあたっての製薬協の中山譲治副会長挨拶の後も歓談が続き、大盛会のうちに第17回製薬協フォーラムは無事終了することができました。



乾杯の音頭をとる日本製薬団体連合会
会長の多田 正世 氏



歓談の様子



懇談会の中締め挨拶をする製
薬協の中山 譲治 副会長

(事務局長 住田 高志)